唐土訓蒙圖彙　自十二至十四

目次

MOROKOSHI KUNMŌ ZUI

唐土訓蒙圖彙巻之十二 艸木之下

草木

此部には水菜毒湿雑苞灌果寓蔓之艸木のすべて録すなり

龍鬚菜 海中の石に生じて緒乃ごとし これを汲て水と沃へば白し

鷓鴣菜 海石のうへに生じ小児の蟲病に用ゆ

澤瀉 江の浅水の中に生ず 葉牛の舌のごとし 茎長し 花黄色なり

大藕兒 根は藕の如くして小さし 煮熟して食す 枝葉食へ

燕子花 水沢に生る花紫にして又白きもあり其形の燕のことくなれハ燕子花といふ 和名カキツバタ

浮薔 夏五六七月に入て生る よりて泊に漂し 脈気一母の泡 瑞驎に拌食ふ 生にも亦よし

牛尾温 浮水の中に生る葉ハ鬢の如く茎に藻のことく冬月魚ハ和して煮合ふ 夏秋もよし

和名ミヅナギ

和名カハモ

眼子菜 六七月より水沢の中に生る葉まるく北月ハ茎長く滑らかして細長し 湯に淖し晒乾し醯醤に拌てくらふへし

燈蘸兒 二月 これをとりて洗ひ香油にて炒て塩にくらふへし

水菜 秋水田に生る白菜に類す香油にて塩にてくらふへし

和名ヒルムシロ

和名ミヅナ

鵝鳥兒腸 地に就て叢生して長く節ごとに對して葉生る葉間分て枝を生し白き花を開く苗葉食へし

地瓜兒 苗の高二尺餘茎方にして四稜あり葉澤蘭に似て微長し苗根ともに食ふ

碎米薺 田野に多し葉ハ細く白き花を開く小花の穂あり葉と合て食ふへし

和名レンゲバナ

苜蓿 二月 苗を生る一叢数十茎夏及び秋に入て細黄花を開き小莢を結て實あり

蕺菜 山隠湿地に生る蔓生して茎葉紫赤色葉は蕎麦の形の如くにして微少し

牻牛兒 田野の中に生る茎蔓細弱紫にして五瓣の小紫花を開き葛葵と結ひ上に觜ありて細鍼のことし

和名センダイハギ

和名ドクダミ ギウヤク

和名ゲンノセウコ

生瓜菜 苗長して叢をなし三四寸夏秋白花を開く細實を結ぶ其味生瓜の氣あり

蘑菰蕈 桑楮諸木を土中に埋て米泔をそゝぐ時ハ菰を生ず形ハ大小様々あり一名肉蕈又雞腿蘑菰

雷聲菌 夏秋雷雨の後叢州中に生ず蘑菰のごとし味も亦おなし

大黄 春初苗を生ず莖麻に似て根ハ芋乃ごとし四月黄花を開く一種羊蹄大黄あり

附子 烏頭 天雄 附子 側子 四品都てこれ一種苗の高三四尺以来莖四稜葉ハ艾の如し紫碧色なり

牙子 一名狼牙 苗蛇含に似てくわしく大にして深緑色根黒し獸の齒牙の如し故になづく

狼毒 苗葉商陸及大黄に似たり莖の上に毛あり四月花をひらき八月実を結ぶ

莨菪子 苗莖高二三尺葉ハ地黄に似たり四月花を開く紫色あり莖に白毛あり五月実を結ぶ

和名ダイコンソウ

烟草 一名相思草又淡婆姑といふ朝鮮人南草と名づく又一名煙花烟酒擔不帰といふよし

和名タバコ

茵芋 苗長して三四尺莖赤く葉ハ石榴に似て短く厚し又石楠に似たり四月細花を開くし

大戟 春苗を生し長じて叢をなす高さ一二尺ばかり葉ハ初生の柳に似たり三四月黄紫の花をひらく

續隨子 苗ハ大戟の如く花もまた大戟に似たり葉中に幹を抽て実を結ぶ実に殼あり

半夏 二月
苗を生ず一茎一端三葉淺緑色頗る竹葉に似て光あり一種羊眼半夏あり

曼陀羅 高二三尺緑茎碧葉八月白花を開く状牽牛に似たり大いに實を結て圓なり

劉寄奴 茎ハ蒲公英のごとく又一種柳葉のごとくなるあり此葉をとりてその汁をとり畫具の生臙脂を染よりしめし此まりく血をとゞむ

和名カラスノヒレハク

和名テウセンアサガホ

和名ヲトギリソウ

瓊田草 春苗
葉を生じて花なし三月根葉をとり手足痺の土人風病を治す

鷄項艸 葉ハ
紅の花の如く葉刺あり根ハ小蘿蔔に似たり枝條直にのびて三四月紫花を生ず

野蘭根 叢
生じて高さ二尺ばかり四時葉あり花なしその根をとるべし

半天回 春苗
を生ず高一二尺許赤紫色冬に至て苗葉ともに枯る夏月これをとるなり

兎兒傘 荒地
のなかに生ずその苗高さ二三尺許茎出て獨り葉を生ず傘蓋の状のごとく花ハ淡白なり

蘭茼 苗高
二三尺餘茎餘葉に似て葉細長く鋸歯ありて葉茎を布きて生ず苗葉ともに食ふべし

和名ヤブレガサ

半邊山 葉ハ
苦蕒に似て厚し根白朮に似たり軟なり二八九月に根をとる

小兒群 叢
生高さ一尺ばかり春夏生長して花なし冬枯る其根をとり用ゆ

菩薩艸 江浙
近京にあり一名天ニと名付く蟲蛇傷に其汁をとりて研てつくるべし

露筋草　春苗を生し通て冬ニ至り花を開き子を結ぶ四時凋まず其子碧色とうり時なし

獨脚仙　春苗を生し秋冬に至て葉落つ其葉圓し上ハ青ク下ハ紫其脚四五寸夏根葉をとる

石逍遥　冬夏常にあり花なく実も赤多くれ常州にありとうに略なし

大木皮　其高下大小定らず四時葉あり花なし其皮を用ゆ

百兩金　苗の高二三尺幹ありて木の如く冬凋まず葉背面倶に青し花実を結て後背紫也花碧色実豆のごとし

烏藍　烏ハ大なり村人大を呼て烏とす此菜但宜く熟食すへし

都管草（とくわんさう） 苗生じて一二尺に及ぶ葉は土當皈に似て根は羌活に似たり二八月に根をとる

黄櫨鼎（くわうれうちやう） 天台山中に生ず苗葉冬も夏も常に青し土人其根をとりて薬に入る

黄花了（くわうくわれう） 春三月葉を生じ三月に至て花あり辣菜花に似て黄色秋実を結ぶ

刺虎（しこ） 葉冬を凌て凋ことなし四時に時あり根葉枝幹ともに用ゆ

茆心草（ばうしんさう） 蔓生にして白色根は黄色四月苗葉をとりもちゆ

苦介子（くかいし） 苗の高一二尺ばかり枝枝葉茎青色葉柳のごとし白花を開て楡莢に似たり子は黒色なり

無心草（むしんさう） 三月花を開き五月実をむすぶ六七月に根をとりもちゆ

荊質汗（けいしつかん） 葉赤く花白し七月これを信州の土人とりて風腫を治す

鷹爪（ようさう） 花黄色赤く鋭て鷹の爪に似たり葉は柳に似て樹は連翹に似たり小樹なり花開て香し

和名レダテ

布里艸（ふりさう） 茎の高三四尺葉は杏に似て大きし夏花さかんにして実なる

紫金牛（しきんぎう） 葉は茶の如く上緑に下紫なり實は圓く紅にして丹朱のごとし根は微紫色なし

子午花（しごくわ） 一名夜落金銭花赤く夏に入て開く必日午に開いて子によりおつる名づくる也

和名ゴゼンクハ

胡菫艸 枝葉小菫に似て花紫一枝七葉の花三両出つ苗をとりて搗て腫に貼べし同熱一丸と[illegible]

芋霍兒 人家園中多く植之葉葛に似てちゞみ毛あり花紫むらさきなり根は附子のごとし

石棗兒 野圃多く生る葉は薤に似て冬も凋まず根は水仙のごとし○民これを飢にさつきよく煮されば渋し

和名チヨロギ

和名ツルボ

杜莖山 其苗高四五尺葉ハ苦蕒菜に似より秋紫色の花を開く実枸杞のごとく大なり

華澄茄 春夏葉を生し青滑なる花を咲いて実を結て梧桐子に似より八九月とるべし

麥李花 小にして葉菊に似る麦熟して実食へし

望江南 苗のたかさ二三尺ばかり葉槐の葉のごとく花大にして黄色をひらく角をむすぶ三寸作る

白屈菜 田野また生る苗のたかさ一二尺茎紫まじり白色茎毛刺あり摘取ば又と分ち黄色をひらく葉ハ山芥葉に似たり

絡藤 蔓柚て地を被て枝葉ありて皮ハとつとして竹皮のごとく剥ればつるし藤の葉数丈纏代これを数十里と纜べし○今は細工につかふと云

和名ウロノサクヤ

和名イタチサヽゲ

竹蓐 竹の液おちてかたまりて地に生る鹿肉のごとく白色にしてくらふべし又竹の上に付ても生るもあり

雷丸 竹の苓なり累々つらなりて丸のごとし圓にして皮黒く肉白し毒あり

夾竹桃 花ハ桃のごとく葉ハ竹のごとし故に名く性熱し湿を除き寒を畏る湯焼にもちゆへし

迎春花 臘月黄花を開く根枝上よりも生ず よく花くなり花を重し

和名ワウハイ

金絲桃 桃の如くして心に黄鬚あり花弁に浦殺しく金絲の如くし

和名ビヤウヤナギ

木香花 三種あり黄白紫三色ともに糕につくるべし

笑靨花 木の高四五尺ばかり春の花を開く小細にして粉米のごとし

和名スヾカケ

郁李 木の高五六尺枝葉とも皆李の如し惟子小く櫻桃の如く赤く味酸し

和名ニワムメ

錦帯花 蓓蕾の形小筆の形のごとく色粉紅にして嬌なり笆を屏籬にて植て玩に供すべし

和名ハコネウツギ

刺桐花 葉は野薔薇の如く茎に刺多し花は瓔珞の如く香しからうし

玫瑰 花は薔薇に似て枝に刺多し花に香氣あり四月ひらく糕となれともいへり

和名ハマナス

寶相花 薔薇に較て花大にして千瓣心をふさく大紅と粉色との二種あり

和名センヨウハイバラ

荼蘼花 藤に身して茎青く刺多し花開て香微にして清し 人あやまりて棣棠とす非し

和名キクイバラ コヤブラ

金櫻子 叢生薔薇に類して刺あり四月白花を開く秋子を結ぶ子も赤く刺あり形石榴に似たり

和名ヲヲイバラ ナニハイバラ シダレイバラ

波斯菊 一名西番菊甚だ長し冬に至り葉を乃子地におちて翌年生し復花をひらく

罌子桐 花葉ともは梧に類して實の味辛して吐さしむ多く植へ油をとれて利あり

波羅得 或云 白木にいふあり油とともに澁紙にあるらしとなりと

按此說非ナリ今江州ニアルモノハ即罌子桐ナリ波羅木ヲ本艸ニテ考ルニ白木ニアラス此ニ圖ヲ考ヘテ江加州ヨリ來テウエヘシ生レヤスクレテ油ヲトル利アリ

婆羅維蜜 樹の高五六丈冬を凋まず花なく実ありて枝間に生ず大さ冬瓜のごとくその皮に刺毬あり五六月熟す肉重さ五六斤肉のさかりて橘のごとく甜くまつのごとし

和名 アブラギリ

藤黄 樹を海藤と名づく真臘の人刀を以て枝を斫ば汁をとりおさむ 今畫家ニ用ル所シワウコレナリ

沒藥 撖 撖に似たる木の青液結ひて塊となれるものなし

盧會 波斯 國に出つ今廣州より来る者あり其木より出て脂涙の滴てあつ一朶なり採に時月なし

血竭樹 木乃 高数丈葉は桜桃に似て三角あり其脂液木中より流出る滴膠の如く久しくして紫色となりてなる

阿魏 西番 及び崑崙にいつる或は云ふ脂む毒をこゝの者は羊ど樹下につけてききより其の脂を…

龍腦香 婆律 國にいつる木中の脂白松脂に似く杉の木の氣をなせり

菌桂 葉細とがりく花淨なり三縦文ありむ黄白二色くし葉錦はして枇杷葉の如くあり又葉ふる柿に似るあり ○和名も所ともあり

月桂 葉桂 に似てを皮うすく辛熟して… 天竺桂 桂心なり

丁香 木のたかさ丈余葉櫟に似て冬凋まざむ花は細黄色にして子枝蕊の上に出て釘子ごとし紫色となり

和名 メカツラ

側柏 その葉側むくをもて名とす三月花をひらき実を結ぶ圓葉片とするものあり

沈香 木に節多く葉橘に似て花白く子ハ檳榔に似て大さ桑の如し水に沈むものを上とす

降真香 番国より出る香 蘇方木に似て主とし諸香に和して焼ハ鶴を感し神を降す

檀 二種あり一種ハ葉皮にして椿に似たり田畯うへて民用に利ありてうゆへし

茶梅 白と粉紅との二種あり十月花さく開て久しく耐ふなり
世ニ山茶花と書アヤマリ也山茶花ハ和ニ云ツバキナリ

海桐 葉ハ手の大さの如し皮ハ梓の如く白皮にして堅く縄となして水に入て爛す

和名ホウダラ

和名サザンクハ

扶移 江南山谷に生す樹大数丈園あり風無して葉うごけり詩経に謂唐棣之華是なり

蘇方木 樹ハ楓に類して花黄に子ハ黒し出人とりて絳色を染む

和名スワウ

杜仲 木の高数丈葉ハ辛夷の如く皮厚朴に類すこれを折は内に白絲ありと云ふ

烏藥 葉微圓にして尖て三亞となる面青く背白し五月に黄白の細花を開六月実を結ぶ

橄欖 木ハ木槵に似て高し秋の晩に實なる南人重んじ其木を以て楫を作て撥ハ魚皆浮出と云

楸樹 木ハ大小あり大なるハ琴瑟に作へし葉ハ梧桐に類して白花をひらく
和名ヒサギ

莎木麪 樹八

桄榔に似て葉離披し蒲葵の状のごとし木皮中に白粉あり餅とあらして食ふべし蜀人呼て莎麪といふ蜀呉交趾にあり

烏構木 樹の

色漆黒體重堅緻黒柏のごとくにしてよし葉は莎麪に似たり蛇毒を解す

樺木 樹八

山桃に似たり木に小斑點あり皮厚して軟柔し皮匠家に用て鞾の裏とす

和名コクタン

相思子 樹の

高さ丈餘葉は槐に似て花は皂莢のごとく莢は扁豆に似てその子あり半截黒と紅あり是を龍腦香と収れて耗らず

巴豆 木の

高一二丈葉櫻桃の如くにして厚く大なり四月に花発て五六月實を結ぶ

大風子 大樹

の子状椰子のごとくにして圓なり其中に核あり數十枚中の仁白色久しくすれば油となる

和名タウアヅキ

猪苓 土の

底に生る皮黒く堀りとれば形猪の糞に似たるゆへに一名地烏桃

訶梨勒 花白

く子は梔子に似て青黄色皮肉相着く七八月實熟する時にとるべし

和名カシノキ

猪苓

欅 大樹

高く聳て柳樹のおもむき葉は槐に似て狭長し冬とう其材紅紫色にして器物の類につくりて佳なり

楠 大樹

高くして葉桑のごとし其材性堅して水に入て朽ず故に船に造る木の久しくして石となるものあり

和名ケヤキ

唐土訓蒙圖彙巻之十三　名下子 和名と消

禽獸

此部には山川林地水原の産する禽獣 とりけだものをのせて此にしるす

鸑鷟　神鳥なり鳳のるいにて此鳥多し國語に周のおこる時ハ岐山になくといへり

世樂鳥　南方より出る其状五色にして丹喙赤首にて冠あり王者明徳ありて天下太平なる時あらはるゝ

秋鳥

一名ハ扶老 鶴のごとし 翼の廣さ五六尺 ひらけバ六七尺 長頸赤目 頭項ミな毛なし 足爪ハ鶏のごとく黒色也

鸏𪇆

水禽也 大さ孔雀のごとく 嘴長尺余 足も口に切り赤冠あり 二三寸のごとし 羽毛をつらぬき灑墨のごとし 物とくらぶれハ木葉と合ふ 糞薫陸香に似たり

彰雞

項金色にて 嘴紅にて形鸞に類す 其色ハ鶏のごとし 三月三日より九月まで 紅におちて群飛 雪のごとし

陽鳥

鶴に似て殊に小し 身黒く頸長くして白し

昆鶏

鶴に似て黄白色也 頷長く嘴赤く九辨 啁哳として悲しく鳴く

鶬鴰

状ハ鶴のごとし 水鳥の類也 呉中にあり 田間に生ず

玄鶴

その色黒し 王者音楽の音をしれハ至る むかし黄帝楽を崑崙山に奏す 時に玄鶴舞へり

旋目

大さ鷺に如して尾みじかく 色赤白也 深目にして目の旁の毛ミじかくして旋れり 文選上林賦これをのす

鷫鷞（しゆくさう）

水鳥雁乃屬長頸緑色にて飛鴈に似て其羽裘となすべし又一種獣あり鷫鷞乃ごとく角大にて足短く猪に似たり

翡翠（ひすい）（こそこ）

是魚狗に似て稍大なり水辺に居て魚をとらうごとし或ハ冠有て紺翠の羽あり或ハ雄ハ非雌ハ翠ともいふ

嘯金鳥（さうきんてう）

昆明國より出る形雀のごとく色黄なり魏の明帝の時来り献ず真珠を餌とし常に金屑をはく

鷮（さう）

形ハ雀に似て尾長しぬかく葦の皮を剖て其中の虫を食ふ四五月の間多し和名よしはらすゞめ

蒿雀（かうじやく）

麻雀に似て黒色なり蒿の間に在る故に其名ありこれを食て諸雀よりも美なり

突厥雀（とつくつじやく）

大さ鴿の如く形雌雉に似て毛色斑あり後趾なし尾ハ長く雨の前あらハれて群飛ぶ

黄鳥（くわうてう）

形鸜鵒より大にて毛ハ黄色也尾ニ黒色相まじはる眉黒く嘴尖り脚青し日をさけてうちひをまれあり

繍眼兒（しやうがんじ）

形小にして目白く日より緑色あり声うるはしく鵒を好く籠にかひあそぶ鳥なり

鴇
此鳥ふして七
高く挙つり
ようて中るは
鼓よ射侯は
ききわうを
勝ん
此名を姿
よくてうと
すかハ非し

正
正ハすなわち
鴟鳥小さし
て飛こと疾
して取射
ことし故に
布侯に畫
して
これと
名く

反舌
春に作て鳴
て五月に
至て止む
と反易れ
百鳥の鳴
に效ふ又百
舌とも名
づく

杉鷄
形鸐雉の
如く頂に
黄毛冠
ありて頬ハ
青色にて
黄漆の如
しつねに
杉樹の上
に至

民眠母
大さ鵝の如
黒色にて南
方池澤の
茹蕫の中
に生れ其色
人乃吐すか
ごとく甚だし
又に數一二
斛と吐出す
と

鶚朝
その形ち鸑に似て
五目鶴に
似たり尾
屈促して
總緒の如
あつまり
まろく
よのき

鳴鴿
その形ハ鴿
のごとくり
して足ふ
赤色足と
りつく
火を
禦ふべ
し

鵁
青要山に
鳥あり状
鳧のごとし
青身にて
赤尾
なりこれ
を食へば子
孫に宜し

華蟲

かたちは鶴に似て小し 冠背毛黄 に頂上黒色 鮮明 嵐騰 洞赤し雉子 のごとくひ そして二章 に名づく也

鷃雉

雉の類也 大さ黒色 首に毛角有 冠のなし 性を黨を わいしとして すゝんで死 といへる

當扈

そのかたち 雉子のぬ にして尾は 芭蕉に似 たり人食 すれば 目 まし あきらか

潔鉤

そのかたち 鳧のごとく 尾は鼠に 似たるなり の かれ といふ

鷦鵬

鳳に似たり 神鳥なり 郁離子曰 南方神鳥 あり五彩 にして鳳 の形となん

鵰鳥

鴉に似たり 不祥の鳥 兵亂凶年と なす其小 にして雉 のごとく体に 文彩あり 按ズルニ北越ニ イヘルサケビこ

精衛

神農の女 女娃と名 づく昔東海 に遊び溺死 し化して精 衛となる 西山の木石 を啣て東海 を塡るといふ

青耕

そのかたち 鵲のごとく 白喙白首白 尾にて疫を 禦ぐべし其 鳴こゑは 名のよぶ なり

芸窓日ニ永しくて讀耕ニ倦ミ書冊を枕して宰予と学ん
これ忽ち夢あり桑樞を啓て入ニ寒ニ瞌畢て後机上の冊
猶を探て閲ニ禽部ニいたるを鸐を掩て嘆し且怪ミて、曰
今此図のたぐひハたゞちおゝ入論ありて未タ閲さるもの多し
多キハとらへきてくれ先亦彼大鵬のことハ莊周か既ニ揚説し
王圻探て図じく今ここニ載さらハ遠慮しさりてあくまゝや
將ダ疑しふと闕ニ請ツ其説を聞んとすれハ彷彿として
曰寓何ぞ必大鵬とのみいふや夫鸑鷟ハ禽中ニ霊秀有
して聖代ニ出て岐山ニなく譬言ハ人中ニ聖賢あるごとく
大鵬ハ禽中の怪物にて海ニ出て九天ニ遠く雅人中ニ有
莊老のごとし其説皆妄誕荒唐たり故ニ今妄ニ之
屏て顯さず闕て唯其貨の知やすくして未タ圖セざる
ものと世の希有なるして図なり地を治めて之に慎む
是も亦格物窮理の一助となるのミ況又王圻も知く
圖すれハわかれ其説も亦軒渠すべし或ハ云く寄せる
からず尤して尤ルコト後書を読て日の函ナルコトを不知

麐

土畜なり信にして礼ニ應じ狼の額赤き目五の蹄仁を含ミ義を懐キ音鐘呂ニ中り行規矩にあたる

龍馬

馬八尺以上を龍といふ昔伏羲の時に黄河より龍馬出て背ニ旋毛あり其かたちにしたがひて伏羲これによりて八卦を畫しきたまふいまの河圖これなり

白澤

東望山ニ沢獣あり能言語す王者徳幽遠を照す時ハ至る黄帝巡狩し東海ニ到る時此獣言語す

果然

仁獣也猿より大きて体三尺ばかり鼻孔天にむかひ雨ふる時ハ木上ニ掛て尾をもて鼻をふさぐ毛長く柔ニ白黒文あり○天子袞衣十二章にある宗彜これ也

金猊

形獅子に似て その性火烟をこのむ故 香炉の蓋の上にこれをつく 世に獅子乃香炉といふハ あやまれり 猊なり

類

状ハ貍のごとくにて 髪あり 己れと牝牡をなす 是をくらふものハ 妬まず

三角獣

西凸山より 三角獣あり すなはち 瑞獣なり 先王法度 脩明なる 時ハ いづる

角端獣

東山に一角獣あり瑞物なり 六合天下同じく太平なれば あらはるゝものなりといへり

檮杌

獣の至て悪者也 闘を好て死とも ひかず 状ハ虎のごとく毛の長三尺人面 虎爪豕牙 八尺人を食

貙

虎の属也 立秋の日に 獣を祭る 柳文曰貙ハ虎とおなじ 虎ハ四熊を 畏るといふこ となり

貔

豹の類なり 猛獣なり 貉国に出る 詩経曰献其貔皮 陸機曰貔ハ虎に似たり 或ハ熊に似たり といへり

赤豹

春山に多し 虎に似て文采あり 毛赤し 毛詩 宣王の詩に赤豹黄羆とあり

海豹（かいへう）
そのかたち豹のやうにして五色の文あり水涯にあそぶまゝ一国の豹ども是にしたがふ時ハ海に入る　和名アザラシ

海牛（かいぎう）
その長さ丈餘あり紫色にして角なし足ハ亀の如く尾ハ鮎の如し人をみれバ走て海に入る

夔（き）
状牛の如くにして角なし足ひとつありひかり黄帝是をとらへて其皮を鼓とし雷獣の骨を桴として打つ聲五百里にきこゆ也

齧鐵（けってつ）
その状水牛のごとく黒きこと漆のごとし鉄を食ひ水を飲む糞を兵となせしに利きこと鋼のごとし

水犀（すいさい）
犀に数種あり山犀ハ三角あり水犀ハ二角あり一角ありて霊あるハ通天といふ通天ある者ハ...水犀といふ

兕（けい）犀ノ牝也
禱過山に多し状野牛のごとく青色一角長三尺餘馬鞍のかたち身の重千斤其皮厚く鎧を製べし

犛牛（りうぎう）
西南夷の長毛牛也牛に似て四足膝下及び肘皆赤毛の長尺餘ありて其尾大さ斗のごとし天子の車纛ありこの尾を以て作られ

犏牛（かうぎう）
状水牛の如く体大に多力にして重さ千斤髀膝尾背胡下皆黒毛あり尾長くして地にたる古人これを旄として旗とし白色なるハ...

羆

状熊に似て白文ありて長頭にして高脚なり性猛憨多力人のごとく立てよく人を害す

玃

色蒼黒にして能人を攫持す長七尺人のごとく行て健に走る或ハ猴又百歳なるの化せるなりと云

狨

状猴に似て尾長し毛黄赤にして性好て樹に躍り又毛を取て敷て寝れば百とせもしへし

獑猢

猴の属なり黒身にして腰白き帯のごとくなる毛あり白色にして握る手の状は人の手に似て捷にして飛がごとし

野女

状木猴に類し頭正に立て人に似たり髪の長さ尺余常に猴を面として群を成てひらくあり

獨

形猿に似て大なりよく猿猴をとらへ喰ふ猿一声鳴ば猿猴三声鳴してにげさる獨はひとりをもって獨といふ

蒙頌

状ハ雌猴のごとく小なるものにして紫黒色交趾より出つこれを畜て鼠をとらしむるに猫にまされり

魍魎

状ハ三歳の小児のごとく赤黒色目赤く耳長くして髪うるはし川澤の神なり

赤貍

西海にあり周文王乃姜里に囚はれし散宜生是を献じて遂に西伯の難をまぬかる

風貍

其状大さ狸のごとく目赤く尾短し是を伏て木の風によりて樹より樹にうつるとき飛がごとし是をうちころしても風をうけてよみがへる人家中に縊しくゝりて

乗黄

西海の外白民國にあり白身髪をかふり狀狐のごとし其背の上に角ありこれに乗れば壽二千歳なり

玄貙

滲羅澤に玄貙あり穆天子是を得て河宗にまつる周礼に貙をまつるとあるは死して此地氣をまつるといへり

天狗

陰山に獣あり狀狸のごとく白首蛇を食ふ其音猫のごとし是を佩ば凶を禦べし

貆

胡犬は狐に似て小し喙黒く[illegible]千杯意[illegible]皮をとりてつくるもの[illegible]

狡

玉山に獣あり犬の状にして豹の文牛乃角ありて犬の声なり此を見る時は天下大にみのる

黒狐

北山に黒狐あり神獣也王者能太平を致時は此獣あらはれ四夷来貢す周の成王の時いたる

猛槐

譙明の山に獣あり 状貆のごとし 赤毫あり 鼺鼠のごとし

鹿蜀

杻陽の山に獣あり 状馬のごとく白首 虎文ありて尾赤く 謡のごとし 人此皮を服する時ハ子孫ますます多し

䮒疏

帯山に獣あり 状ハ馬首にして角あり 以て石を錯べし

驘 騾ト同じ

驢に似て馬よりも大なり 舊中国の産にあらず わち匈奴乃奇畜なり

旄馬

南海の外にあり 状馬の如くして 四節ごとに長き毛あり

果下馬

此ハ海島に産して高さ三尺ばかり 極めて小さし これに乗りて果樹の下を行くべし 和名云 トサゴマ

山驢

山驢ハ驢に似たり 角ハ羚羊のごとし 但羚角よりやや大なり

海驢

状驢の如くして 海島に多し 皮ハ製して馬具となすべし 和名 ミチ

羱

西方の野羊状驢の如其角甚大也夏の時麋の角上にて草をまとひ生ずこれよりのちのちもとく異なる也

封羊

形ハ羊にして背の肉さく駝のごとし故に駝羊とも云

羬羊

華山に獣あり状羊にして尾ハ馬のごとし羊の大なるもの也その脂ハ皺を治すべし

䍺

句山に獣あり状羊の如にしてはらりし色其性頑狠人教べからず

葱聾

符禺山に獣あり状羊のごとく赤き鬣ありて首くろし

一封駝

形ハ駝にして脊上に肉ひとつあるゆへ一封駝といふこれを封牛といふ

野婆

南丹州に出づ黄髪椎髻裸形跣足[illegible]にして皮をまとふ群をなし男子を負去て配とす武夫ありてこれと争ひしに[illegible]

山𤢖

西方深山に人あり長丈余蝦蟹を捕て人に就て炙り食ふ人これを犯せば寒熱を発す

○和にいふやまをとこなるべし

唐土訓蒙圖彙巻之十四

名下ニ和名ヲ附

魚介蟲

此部には魚鱗甲殻蜉虫のたぐひのせらく乃ち記すれし

蜃 その形蛇に似て大にして角ありて龍の状のごとし鬚あかし腰以下鱗ことごとく逆にはゆ気を吐ば楼臺城郭のかたちとなる是を蜃楼又海市といふ

應龍 恭丘山に應龍あり翼ある龍なりむかし蚩尤黄帝に逆ひとして冀の野に禦うしむとぞ

方頭魚

うぐひの全體に似て大きさうぐひの背高し尾に岐あり和名あまだい

金線魚

質ハ鯠鬣魚のごとくにて細長くきはめてうつくし頭より尾まで金線の如き筋あり挽割ば糸とよるがごとし

緋魚

状ハ紅鯉魚のごとく長さ六寸すべて紅鯉の類まはりに口大きくて色朱のごとし

火焼鯿

頭尾ともに魴に似たり脊骨隆く赤き鬣ありて尾に連て翼蝙蝠のごとし其質赤彰にして網畫あり

肋魚

鰣魚に似て骨多きこと甚し鯽魚と名づく味佳ならず

玉筋魚

身圓くして箸のごとく微黒にして鱗なし葉を開く味はひよくして肥へし

大口魚

其の状烏頰魚に似て色淡黒にして大口細鱗あり此魚小海より出川に入りて佳し

竹魚

状ハ青魚のごとくにして骨刺多し色竹のごとくその味甚美なるべし

胡鯋

そのさまくして背上に沙あり大なるもの長一丈餘小なるもの三尺人を齧殺のこと し

鴟尾

状ハ龍頭にして鴟尾に浪を激まし雨を降すならぬ故にて屋上の尾に像を作りて火災を厭なり蚩尾鴟吻も同し

神亀

夏の禹王水を治玉ふ時洛水より亀出る其甲に文ありて字畫の如し禹王これを次て九疇とす今の洪範也

鼇亀

巨なる亀なり渤海の東岱輿員嶠方壺瀛州蓬莱の五山あり巨鼇首を仰てこれを戴といふ

蠵亀

蹊蹻山に出づ瑇瑁に似て文采ありその甲を以て碑趺に用ゆ贔屓と同じ瑇瑁の雌也

玄亀

杻陽山北怪水河に出東に注水中に玄亀多し其状鳥の首虺の尾聲破木のごとし

瘡亀

此亀高山石下に生ず状ハ偏頭大嘴なりよく老瘡を治す或ハ病人の床に掛るなり

攝亀

一名鴦亀腹小にして中心横折し能自ら開閉す好く蛇を食ふ故に呷蛇亀といふ

珠鼈

葛山澤中に多し其状肺にして六足あり腹内に珠あり其味甘く酸し食へば時氣を避べし

鼅鼊

その形亀のごとく大さ四五尺ばかり甲に黒珠文采ありて玳瑁の如し物の用には玳瑁のごとし

能

三足の鼈にして三足なり呉興郡陽羨縣君山に池ありその中に三足の鼈多し

元亀

状鼈に似て大なり背に膃肭あり色青黄鼈と雌雄となるその卵を生ずること大さ鴨の卵のごとし

絜歩

その形蟹にしてその螯一つは大に一つは小し大螯は闘ひ小螯は物を食ふその螯赤し

百足蟹

善苑國に百足蟹ありその長さ九尺あり四つの螯ありて煮て膠とし鳳喙膠にまされり　草木子

鬼蟹

形つねの蟹にして甲に人面の状あり

○和云 [illegible]

蟛蜞

その形蟹にて小く毛あり陂沢田港の中に生ず故に毒あり

招潮子

小蟹にして穴を出て潮のひく時はつまりて手をわりてまねくごとし

蟛蜞

招潮

海鏡（かいきやう）

此殻方寸の円一寸ハ赤く一寸ハ白し 蟹ありて 餅の蟹之 ○和名 月日貝ハこれなるへし

蠘（せき よめがさら）

海辺の石にまとひ着て生く肉の形蟹に似て味もよし 又よし 鰾膠とうへし

樗雞（ちよけい）

一名ハ紅娘子 六足ありしてまれなる翼あり 外翅ハ灰黄にして斑黒あり 内翅ハ又赤なるしる

蜩（ちやう ひぐらし）

そのかたち首方ひろく冠をおひて蝉に似て利く鳴く 清亮なり 一名ハ蝘 一名ハ寧母

螟（めい いるむし）

蝗と同し 節むしなり 淮南子曰法令を抂れハ螟螣多しといへり 今全数と以てとふなし

菊虎（きくこ きくすい）

その形蛍のことく似てあり 菊の苗を食ふて 菊の宿根より化するといへり 小虫なし

蠍（かつ さそり）

形ハ水黽のことく八足にして長尾なり 節ありて毒あり 大なるもの人をさして死に至る毒虫なり

蜮（こく）溪鬼蟲同

形鼈に似て長三寸其色黒し 背上に甲あり 口に角あり そのさまハ弩のことく 気をもつて人を射る 射られて死す

多識於鳥獸草木之名。此博知之事。學者之所宜潛心也。此書範天地人物圖之說之。裁為小冊。孰不珍焉。本邦向有訓蒙圖彙。今所收載。皆拾其所遺。觀者幸毋以依樣畫葫蘆貽嘲。專庵頃有此選。予與校讎。因附一辭于卷尾云。享保己亥攝江穗積以貫伊助甫䟦

享保己亥歲官准

浪華書肆寶文堂上木

享和二年壬戌春求版

浪華書舗

御堂筋瓦町南　小刀屋六兵衛

心斎橋通北久太郎町北　河内屋喜兵衛

同　通唐物町南　河内屋太助

同　通北久太郎町南　河内屋吉兵衛